

ご挨拶（式辞）

桜の花が咲き誇る今日のこの佳き日に、ご来賓 P T A 副会長 白倉美咲様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸北高等学校、第四十八回（本来は入学式ですが）「入学のつどい」を挙行できますことは、私たち教職員にとりましても、誠に喜ばしい限りでございます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症にかか
る緊急事態宣言が発令されている状況を鑑み、また、
県教育委員会からの直接の細かい指示により、様々
な形で変更・簡略化して開催させていただいており
ますこと、大変心苦しく思っております。この点、
関係の皆様にお詫び申し上げます。

さて、ただいま入学を許可しました一六〇名の新
入生の皆さん、神戸北高校へのご入学、心からお祝
い申し上げます。

皆さんの今日のこの喜びは、皆さんの努力の結果であることは勿論ですが、これまで慈しみ育んでくださったご家族、また小学校・中学校の先生方はじめ多くの方々の支えがあったからこそであり、その方々への感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

一年前の入学式では、日本史に残る令和という新しい元号が発表されたばかりでありました。新入生は、入学の喜びに加えて、「新しい時代」の幕開けにも期待を膨らませたと思います。

一年後の現在、今度は、日本史だけでなく、確実に世界史に残る歴史的できごとが進行しています。まだまだ出口は見えてはおらず、「目に見えない敵との戦争」は当然続きます。北高での授業も、いつ再開できるかの見通しも立っていません。

この異常な状態が一刻も早く正常化され、北高も以前の姿に戻り、現在のこの状況も、単に皆さんの「高校入学当時の思い出」となる日が来ることを心から祈るばかりです。

次に、この場をお借りして、新入生の皆さんに一つメッセージを贈りたいと思います。それは、「苦しいときこそ登り坂」という言葉です。この言葉は、私がまだ若い教員であった頃、大先輩の先生が私たちに言ってくくださったものです。

この言葉の意味するところは、「楽なことばかりしては、進歩はない」「負荷がかかって苦しい思いをしているときこそ、上り調子であり、伸びて進歩しているのだ」ということなのです。

その大先輩は、若い頃からずっと、登山をしておられました。山頂を目指して山を登っているとき、体はしんどいけれども、それを乗り越えると、山頂

征服という大きな目標が達成できる。そのような気持ちでこの言葉に込められました。

皆さんの場合、例えば、部活動で負荷のかからない楽な練習だけをしていては、筋力も技術も身につかないと思います。勉強で言うと、大学受験のとき、一見「楽な」推薦入試を目指すのは、人生の長い目で見ると、得策とは限らないこともあります。

皆さんは在学中、できればこの言葉を心に留め、北高での勉学や部活動に臨んで欲しいと思います。

ここで、保護者の皆様に申し上げます。本日は、お子様のご入学、おめでとうございます。

私ども教職員は、厳しさの中にも愛情をもって、また、人間的なふれあいを基盤として、お子様方の自己実現を支援するため、最善の努力をする所存でございます。どうか、本校の教育に格別のご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、四十八回生の皆さん一人一人が、三年間、充実した高校生活を送り、こころ豊かで自立した人間として立派に成長していくことを願い、ご挨拶（式辞）といたします。

令和二年四月八日

兵庫県立神戸北高等学校長

長澤 和弥